

委員会レポート (常任委員会・所管事務調査・道内先進地視察調査)

総務文教常任委員会

【所管事務調査】

平成28年10月25日

①学校ICTの環境整備について
教育委員会から、平成28年度から3カ年計画で進められている町内小中学校のICT機器の導入状況について説明を受け、札内中学校ではICT機器を使った授業を視察した。生徒からICT機器による授業が分かりやすいと好評であり、近年言われている家庭での電子メディアの接触時間についても、学校として指導がなされていた。

ICT機器を使った授業の効果は大きく、今後の対応として、台数の確保や無線LANの大容量化、学校間格差を生じさせないための導入計画の前倒し等について意見が出された。

道内先進地視察調査

平成28年10月6日から7日

《アイヌ民族博物館（白老町）》

アイヌ民族博物館（ポロトコタン）の施設見学を通じて、アイヌ民族の風俗や生活民具、神具などのほか、アイヌ民族博物館の運営や展示品について説明を受けた。

か、アイヌ古式舞踊などを観覧した。

展示品をただ展示するのではなく、ジオラマ（展示物とその周辺環境・背景を立体的に表現する方法）を用いて視覚的に見せることで、当時の生活を容易に想像させる工夫がされており、合わせて、これらのことについて深く知ることができるとい、すぐ隣に関連資料を置くというような気遣いがされている。



アイヌ民族博物館の展示室

博物館や資料館の存在意義は、過去の暮らしを現在の私たちが学び、未来の町づくりに活かしていくことであり、本町の歴史や文化発信の拠点であるふるさと館や蝦夷文化考古館の今後のあり方や役割についてのヒントを、ポロトコタンで得ることができたものと思ふ。

夷文化考古館の今後のあり方や役割についてのヒントを、ポロトコタンで得ることができたものと思ふ。

《札幌市アイヌ文化交流センター》

施設を設置目的をはじめとして、独特の文化を育んできたアイヌ民族の生活や歴史、文化などを楽しみながら学ぶ展示方法と、本施設を有効利用する貸館事業について説明を受けた。

実際に手にとつて見ることでできる展示方法、有効な施設利用について大いに参考になったが、何よりも専門スタッフとして若者を活用し、彼らが新たな感性で運営をされていることが印象的であった。幕別町としても、このような人材育成、人材発掘が望まれると感じた。

《倶知安風土館》

風土館の運営のあり方、展示の仕方、展示の企画、説明員（学芸員）の配置状況等の取組について説明を受けた。

町民から、倶知安町の歴史を町民や来町者に紹介するための施設設置要望を受け、旧日本大の倶知安校舎を改築、一部増築し、平成

14年にオープンした。学芸員でもある館長は開設準備段階から携わっており、「見て、触れて、感じる博物館」をコンセプトに、これまで運営してきている。

入館してすぐに小上がりがあり、小さなおもてなしのお茶が用意され、暖かい気持ちを感じられた。

小部屋ごとにそれぞれのテーマに沿って展示品が陳列され、タイムスリップした気分させられた。展示品を実際に自分たちの手で触れることができることから、これまでになく博物館としてのあり方を感じることができた。



床に倶知安町を一望できる航空写真が広がる (倶知安風土館)

民生常任委員会

【所管事務調査】

平成28年11月24日

① コミュニティバスの運営状況について

コミュニティバス事業のこれまでの経過や運行実績について説明を受けた。札幌バスの利用実態調査の実施や乗車率向上対策の検討等について意見が出された。

② 地方バス路線確保対策について

運行している路線の概要や目的のほか、乗車密度、運行に係る経費・補助金等について説明を受け、今後の経費や補助金、町の負担額の見込み等について調査を行った。

③ 青葉保育所の今後の運営について

青葉保育所のこれまでの民営化の経緯や民営化した場合のメリット、移管先法人の選定方法等について説明を受けた。

民設民営化の条件整備として、これまで行ってきた事務手順や公募しないことについての考え方、保護者への説明対応、意向調査の確認などについて調査を行った。

道内先進地視察調査

平成28年10月20日から21日

《旭川市》



永山第3地区市民委員会の又村会長（左から3番目）から除排雪事業の説明を受ける

旭川市との協働事業により、永山第3地区市民委員会が中心となつて取り組んでいる「冬の生活道路を守る協働意識の向上」という地域住民の日常生活と密接に係る生活道路の除排雪の取組について説明を受けた。

永山第3地区市民委員会では、住民ボランティアの力で除排雪事業を市除雪センターとともに進めており、除排雪機械の借入れについては、市より補助を受けており、重機などの運転は住民により行われている。

今後の課題として、高齢化が進む中、若い人をどのように参入させていくかということに苦勞されていることを認識した。

《千歳市》

千歳市における市民協働のまちづくりと定額自動寄付制度「きふ・とも」について説明を受けた。

市民協働の原点として、「みんなで進める千歳のまちづくり条例」を制定し、基本原則として市民と市の相互間における情報の共有、市民協働の担い手となる職員等の人材育成、行政活動への市民の積極的な参加を掲げ、協働事業として市民提案型や市提案型により市民参加を促している。

また、市民公益団体に対して、市民が寄付を通して活動、応援していく取組として「きふ・とも」制度があり、間接的に社会貢献ができる仕組みとなっており、平成22年から平成27年までの寄付金は368万円近くになり、市民意識の高さを認識した。

《室蘭市》

市民と行政との協働による活力と魅力に満ちたまちづくりを目指すとともに、市民活動団体等の育成を目的とした行政パートナー制度について説明を受けた。

行政パートナー制度（まかせてパートナー・まじこころパートナー・まち「ピカ」パートナー）の展開



行政パートナー制度などの概要説明 (室蘭市)

により、市民活動団体や市民が自発的な活動を実施しており、行政サービスの向上、経費削減を目的とし、市民の行政に対する理解を深め、自らのまちを美しく住みやすいまちにつくりあげていく姿に感銘を受けた。

まち「ピカ」パートナーの実績は、平成16年は42団体、28年には221団体となっており、市全体に広がっている実態を聞き、まちの勢いを感じた。

幕別町においても、参加者の安全を守りながら、多くの町民意識の向上が必要と認識した。

委員会レポート (常任委員会・所管事務調査・道内先進地視察調査)

産業建設常任委員会

〔所管事務調査〕

平成28年10月5日、10月25日

- ① 幕別町住生活基本計画について
- ② 幕別町公営住宅等長寿命化計画について

平成25年3月に両計画が策定されたが、将来推計人口の変化や老朽化の進行などから、平成38年を目標準として、計画の見直しを行うことになった。

- ③ 幕別町耐震改修促進計画について
- ④ 忠類地域の大型遊具設置について

耐震化への取組に当たっては、相談窓口設置のほか、耐震化の情報提供、無料耐震診断や新築リフォーム奨励金制度の周知等を行うこととしている。

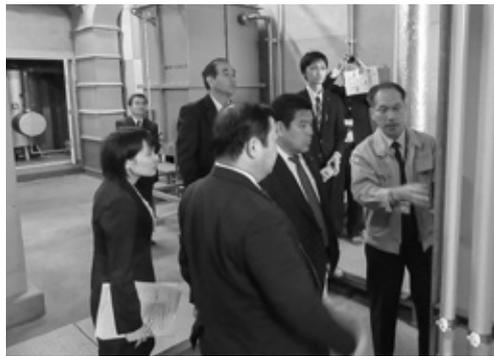
忠類ナウマン公園に設置された大型遊具4基の現地調査を行った。遊んだ後の着替えや、水を使う遊具の設置を考えたときの更衣室の整備と遊具近くへのトイレの必要性について意見が出された。

- ⑤ 農業委員会等に関する法律の一部改正について

農業委員会の事務として農地等の利用の最適化の推進が最も重要な事務であることの明確化、従来の農業委員の選出方法を公選制から市町村長の任命制に変更、農地利用最適化推進委員新設の3点について説明を受けた。

今後は、町内在住者でなくても農業委員の公募対象になることもあり、公募に関する基準整備や選考方法、定数等について調査を行った。

道内先進地視察調査
平成28年10月13日から14日
《恵庭市》



下水終末処理場のマイクロガスタービン (恵庭市)

生ごみ・し尿処理場、下水終末処理場におけるバイオガス化、エネルギー活用について説明を受けた。

全国初となる生ごみのバイオガ

ス化は、平成24年9月から供用を開始した。下水終末処理場内で混合された生ごみ、し尿、下水汚泥等からバイオガスを発生させ、脱硫後にガスタービンに貯留し、マイクロガスタービンで発電し、場内での利用や蒸気ボイラの燃料としている。また、消化汚泥は民間事業者に搬出し、セメントや肥料等の原料になっている。

維持管理費や運転管理委託料の増加によるコスト面が最たる課題であり、他の自治体での導入が進まない要因となっている。

《株式会社kalm角山 (江別市)》

ハードナビゲーターシステム、ロボット搾乳、ロボット管理による牛舎、バイオガスプラント等について説明を受けた。

5軒の農家が農業法人となり、平成26年1月に設立された。平成27年8月に8台のロボット搾乳による日本初のメガロボットファームが実現し、サツラク農協を通じて良質な牛乳提供をしている。

最新鋭のロボット技術導入により、効率的なものとより、生産コストが削減され、多くの人材を必要としない徹底された営農システムに驚嘆の連続であった。



搾乳ロボット (株式会社kalm角山)

《鹿追町》

集約型バイオガスプラント、チヨウザメ飼育、実証実験である定置式水素ステーション等について説明を受け、現地を視察した。

1日に1870頭分の処理能力があり、国内最大規模である。消化液は有機質肥料として畑に散布し、土壌改良効果がある。

平成26年より余剰熱を活用したチヨウザメ飼育、マンゴー栽培の事業を展開し、平成27年からは環境省の実証事業として、道内初の定置式水素ステーションを民間事業者が中心になって進めている。



十勝町村議会議長会主催による議員研修会が、平成28年10月31日に幕別町百年記念ホールで開催された。

講師として、公益財団法人とかち財団理事長の長澤秀行氏を招き、「産官学連携によるモノづくり、ヒトづくり、コトづくり」と題して講演が行われた。

講演では、地域振興に向け、ものづくり支援や地域連携の支援の必要性を学んだ。

開催町として、飯田晴義町長が開会の挨拶を、芳滝仁議長が閉会の挨拶を行った。

十勝町村議会議員
研修会に参加

インターネット議会生中継がスマートフォンやタブレットで見られます！！

これまでパソコンでしか見られませんが、平成28年第4回定例会（平成28年11月30日）からスマートフォンやタブレット端末でも生中継を視聴できるようになりました。

IT化の急速な発展により、スマートフォン、タブレット端末等の保有者が増加していることから、多くの方々に町議会に関心を持っていただきたいと考えていますのでぜひご覧ください。



◎傍聴席はあなたをおまちしております。

平成29年第1回定例会日程（予定）

- 3月 2日 初日
- 8日 一般質問・議案審議
- 9日 一般質問・議案審議
- 10日 一般質問・議案審議
- 17日 最終日

●問合せ先：議会事務局（54-6626）

◆議会日誌◆

- 11月 1日 千葉県香取市議会行政視察
- 4日 議会運営委員会
- 4日 第2回臨時会
- 4日 総務文教常任委員会
- 7日 音更町議会行政視察
- 17日 議会運営委員会
- 17日 合同委員会
- 17日 総務文教常任委員会
- 22日 議会運営委員会
- 24日 民生常任委員会
- 30日 議会運営委員会
- 30日 第4回定例会（初日）
- 30日 アルコ236及び道の駅・忠類の指定管理に関する特別委員会
- 30日 議会広報広聴委員会
- 30日 総務文教常任委員会
- 30日 民生常任委員会
- 12月 2日 アルコ236及び道の駅・忠類の指定管理に関する特別委員会
- 7日 議会運営委員会
- 7日 第4回定例会（一般質問）
- 8日 議会運営委員会
- 8日 第4回定例会（一般質問）
- 8日 産業建設常任委員会
- 9日 議会運営委員会
- 9日 第4回定例会（一般質問・議案審議）
- 9日 アルコ236及び道の駅・忠類の指定管理に関する特別委員会
- 9日 全員協議会
- 13日 民生常任委員会
- 13日 アルコ236及び道の駅・忠類の指定管理に関する特別委員会
- 16日 議会運営委員会
- 16日 第4回定例会（最終日）
- 16日 全員協議会
- 1月 11日 議会運営委員会
- 12日 議会広報広聴委員会
- 13日 議会運営委員会
- 19日 議会広報広聴委員会
- 19日 全員協議会
- 30日 総務文教常任委員会